

7月



# 園だより

令和5年6月28日  
佛教大学附属こども園

「仏教保育7月のねらい」

布施奉仕

「七つの施し」

園長 佐藤和順

早いもので、1学期最後の月となりました。4月に入園・進級し3ヶ月が過ぎ、園での活動も活発になり、一人ひとりの身体と心の成長を日々実感しています。

さて今月の保育目標は「布施奉仕（ふせほうし）誰にでも親切にしよう」です。他人に親切にすることはまわりまわって自分にもどってきます。そうした利害をぬきにしてどんなときも隠れた親切が、社会を明るくすることを知らせていきたいと考えています。

布施とは、「施し」のことです。「施し」とは、手を差し伸べるということ。相手の立場に立って、何かをすることです。「施し」は、決して見返りを求めるものではありません。ボランティア活動などがその代表例かもしれません。「布施」と「奉仕」の目指すものは同じです。仏教には「七つの施し」といわれる考えがあります。心掛けでできる「施し」です。

例えば①眼施、眼の施しです。人と接した時、相手を睨みつけていたのでは、相手も睨み返してきます。しかし優しい眼差しで人と接すれば、相手も優しい眼差しで返してくれます。慈しみに満ちた優しい眼差しで、全てに接することが大切ということです。次に②和顔施、顔の施しです。眼と同じく、人と会うときにはにこやかな顔、笑顔で接しましょうということです。怖い顔をして接したら、相手も怖い顔になります。難しい顔をして同じです。もちろん、自分自身、気分の悪い時もあります。しかし相手にとって、そのようなことは全く関係ありません。いつも和やかで穏やかな顔つきで人や物に接することが大切なのです。3つ目に③言辞施、言葉の施しです。言葉、言葉遣い、言葉がけが大切ということです。優しい言葉、思いやりのある態度で言葉を交わすことです。その他にも、④身施…模範的な行動を行うこと。⑤心施…自分以外のもののために心を配ること。⑥壮座施…席を譲ること。⑦房舎施…雨や風をしのぐ場所を与えることなどがあります。

これらの「布施」は、お金が無くても、地位が無くても、いつでも、どこでも、誰に対してでもできることです。しかし、簡単なようで難しいことでもあります。「布施」という言葉は「喜んでもらうこと」と言い換えたら分かりやすくなるのかもしれませんが。

園においても子どもは、毎日いろいろな場面において、相手の友だちのことを思ったり、喜んでもらったりするために何ができるのか、自分から言葉にしたり、行動したりするなど、発達に応じて「布施奉仕」を実践しています。私たち大人も子どもを見本となるように「布施奉仕」を心掛けたいものです。

